



N-BLOOD

NISMO Motorsports
Communication Magazine

NISMO Motorsports Communication Magazine **N-BLOOD** 2019 / MARCH No.82 NISSAN MOTORSPORTS INTERNATIONAL CO.,LTD



SAMPLE



N-BLOOD

NISMO Motorsports Communication Magazine
2019 / March
No. **82**

nismo

Produced by NISSAN MOTORSPORTS INTERNATIONAL CO.,LTD

ニッサンがフォーミュラEを制する日

2014年に始まったFIAフォーミュラEシリーズは、シーズン5・第5戦香港ラウンドで50戦目を迎えた。6つのマニファクチャラーチームを含む11チームの電動フォーミュラマシンの戦いを見るため、香港や澳門、広州といった国際都市から多くの観客が、香港フェリーポートの特設会場に集まった。予選まではウェットながら、決勝はダンブという難しいコンディション。オープニングラップのホールショットを獲ったのは、フロントロースタートのオリバー・ローランドだった。その後のアクシデントでローランドはリタイヤを喫するが、ニューカマーのニッサンがフォーミュラE初優勝を遂げるのはそう遠くではない、そう思わせるオープニングラップの勢いであった。

SAMURAI

- 4 **2019 NISSAN/NISMO MOTORSPORTS PROGRAMS**
2019年モータースポーツ活動計画発表会
- 6 **Interview with Motohiro Matsumura**
松村基宏総監督インタビュー
- 8 **TEAMS & DRIVERS**
チーム&ドライバー紹介
- 12 **NEW FACE**
新加入ドライバーインタビュー
- 16 **FIA FORMULA E CHAMPIONSHIP**
第2戦～第4戦レポート
- 18 **2019 IMSA WeatherTech SportsCar CHAMPIONSHIP**
ニッサン・オンロークDPI 4位入賞
- 20 **IMSA Heritage**
「ニッサンイヤーズ」を築いたニッサンGTP ZX-T
- 22 **LIQUI-MOLY BATHURST 12 HOUR**
新しい戦いの始まり
- 24 **24H DUBAI 2019 & NURBURGRING 24H**
耐久レースへの挑戦
- 26 **2019 JAPANESE RALLY CHAMPIONSHIP**
ノート e-POWER NISMO Sが初陣で4位完走
- 28 **CRAFTSMANSHIP OF NISSAN/NISMO**
日産/ニスモを支える匠
- 30 **NISMO DRIVING ACADEMY**
内容を新たに今年も開講
- 31 **WORKS TUNING "CIRCUIT DAY"**
「サーキットデイ」なら家族で一日楽しめる!
- 32 **NISMO PARTS**
NISMO パーツ最新情報
- 34 **MOTORSPORTS**
Paddock TOPICS
- 36 **IIKOTO-CHALLENGE**
9回目のイイコトチャレンジで2550名が激走!
- 37 **NISSAN/NISMO COLLABORATION GOODS**
こだわりの逸品 with NISSAN/NISMO
- 38 **SUPPORTER'S PADDOCK**
2019年春夏NEWアイテム/読者プレゼント

2019 NISSAN/NISMO MOTORSPORTS PROGRAMS

2019年モータースポーツ活動概要



けん どころ ちょうらい

捲土重来を期す 2019年モータースポーツ活動計画発表会

2月9日、横浜の日産グローバル本社・日産ホールにて
2019年シーズンのモータースポーツ活動の発表会が行われた
各カテゴリーのドライバーたちが多数参加し、今シーズンの躍進を誓った

毎年恒例となった、シーズン開幕前のモータースポーツ活動計画発表会。2019年の発表会は、ここ数年と趣向を変えて、神奈川県横浜市の日産自動車グローバル本社ギャラリーの日産ホールで行われた。例年どおりファンを招いての開催となったが、600人を収容するホールは開場とほぼ同時に満席になってしまう盛況ぶりに、日産陣営への熱い期待がうかがえた。NISSAN GT-R NISMO GT500とLEAF NISMO RCが並ぶス

テージの前に、集まったファンの熱気は徐々に高まっていった。
そして13時、いよいよ発表会がスタート。ニスモ代表取締役社長兼CEOの片桐隆夫より、モータースポーツ活動概要の説明が行われた。すでにシーズンが始まっているフォーミュラE選手権の説明に続き、多くの注目が集まるSUPER GTシリーズGT500クラスが発表された。「2019年シーズンに向け、競争力の強化とシリー

ズチャンピオンの奪還を目標に掲げ、ハード面・ソフト面の見直しに取り組みました。体制の見直しを行うなかで、4チームすべてが強くなること、より迅速な意思決定を行うこと、車両開発とチームとの連携をさらに強化することに重点を置きます」と、意気込みを語る片桐社長。
松村基宏日産系チーム総監督の紹介に続き、各チームの紹介では、4台中3台の体制変更ファンからどよめき起きるシーンも。あわせて、長

年日産/ニスモのドライバーとして走り続けてきた本山哲がGT500クラスの第一線を退き、エグゼクティブアドバイザーとして、日産系チームをサポートすることが発表された。続いてカスタマーレーシングプログラム、グラスルーツカテゴリーの支援などが発表され、12月8日(日)にNISMO Festivalの開催決定も報告された。
片桐社長は「今年はNISSAN GT-Rが誕生50周年を迎えるにあたり、GT-Rの名にふさわし

い力強いレースを、そして世界の街でNISSAN INTELLIGENT MOBILITYのパフォーマンスをお見せしていきたいと思えます。今年もよりいっそうの応援をよろしく願っています」と最後に挨拶し、会場は大きな拍手に包まれた。
その後、本山哲エグゼクティブアドバイザーのGT500引退セレモニーを実施。星野一義監督や、柿元邦彦アンバサダーなど、関係の深い人物たちが花束を持って登壇し、感謝の気持ちを伝えた。

続いてGT500やGT3など、各カテゴリーのドライバーや監督が登場してトークショーを開催、また、新たな取り組みとして日産・自動車大学校と販売会社の整備士がレースメカニックとして参加する「NISSAN MECHANIC CHALLENGE」の紹介も行われた。フィナーレは恒例となったハイタッチ会で締めくくり。ファンと触れ合い、心温まるひと時を過ごした登壇者一同、シーズンへの思いを新たにす発表会となった。



1 ニスモ代表取締役社長兼CEOの片桐は、新体制でのタイトル奪還を宣言。2 松村総監督も総力を結集して臨む決意を語った。3 本山エグゼクティブアドバイザーのセレモニーでは星野監督らが労をねぎらった。4 レースを通じた人材育成「NISSAN MECHANIC CHALLENGE」について熱く語る近藤監督。5 最後は出演者とファンがハイタッチ。



NEW FACE

2019年シーズン
日産系チームに加入した
3選手の素顔に迫るインタビュー！

Text by Makoto Ogushi Photo by Yasuhiro Oshima

Kohei Hirate

平手晃平

1986年3月24日生まれ 33歳 愛知県小牧市出身

子供の頃からGT-Rが大好き 堂々とGT-Rファンを名乗れます

「私は他メーカーの育成ドライバー出身で、GT500にも長く参戦していましたが、2017年シーズンいっぱい所属チームとの契約が終了することになり、その年の12月頃から柿元（邦彦）さん、田中（利和）監督と話し合いを始めました。18年シーズンはGT300クラスを戦いながら将来を見据えて話し続けていたところ、年末に開催された日産のオーディションに呼んでいただけました。その際に所属していたチームの監督も、『残念だけどそういうチャンスがあるならぜひチャレンジしてみろ』と後押ししてくれました。その結果、今年は日産陣営に入ることになりました。たくさんの方のおかげで今があるので、感謝の気持ちでいっぱいです。

プライベートではGT-Rが昔から好きだったので、そのGT-Rに乗ってGT500クラスを戦うことになったのがとても嬉しいです。これまではライバルメーカーにいましたから、立場上GT-Rが好きですと大きな声では言えませんでした。今年からは堂々と言えるようになりました（笑）。クルマを走らせることが好きなので、レース以外のときも父親の32GT-Rを『ちょっと貸して』と借りて走らせています。（松田）次生さんとも、今度一緒に走りに行こうと意気投合しました。GT-Rは心くすぐられるエンジン音が最高ですよ。

本格的なGT-Rでの走りこみはこれからですが、17年シーズンまで乗っていたクルマと比較すると、同じモノコックを使っているのに、それぞれ特色があるんだなと感じました。GT-Rにはすごく良いところもある一方、改善していかないといけない面もあるようにも思います。これまでは、GT-Rはトラクションが良く、低速でエンジンのトルクもありそうだと印象を持っていました。富士のセクター3などでは引き離されていましたし、レースの後半にトラクションがルーズになってきても、GT-Rはまだ余力がある感じでしたね。実際に乗ってみて『ああ、このことか！』と納得しましたし、そこがGT-Rの強みなのだと改めて理解しました。

大勢の日産ファンの方々にウェルカムで迎えていただいたので、本当の意味で一日も早く認めてもらえるような結果を皆さんにお見せしたいと思っています。以前から日産応援団の熱い応援を眺めてはいましたが、あの応援団が今年は自分の後についてくれるんだと思うと楽しみです」

